

2026 武蔵義塾 小学生カレンダー 【2月】

主な催し ☆ “まだ寒い日が続きますが、新学年に向けてしっかり基礎固めをしよう！”

- 小6生は復習・英語の予習など、中学入学準備講習を2月から行います。
- 2/15(日) 2025年度第3回漢検試験実施。受験生の皆さん、ファイト！！
- いつでも、教育に関するご相談に応じておりますので、お気軽に御連絡下さい。
- 小・中学生 大募集中(特典・キャンペーン有)、無料体験学習(2日間)実施中！
- 各種検定(英検・漢検・数検)コースや学童保育型学習塾「むさしプラス」も開講中。ご相談お待ちしております。



日	曜	行事
1	日	休講日
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	休講日
8	日	休講日
9	月	
10	火	
11	水	建国記念日 休講日
12	木	
13	金	
14	土	休講日
15	日	休講日 2025年度第3回 漢字検定試験実施予定 がんばれ！受験生！！
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	シャトル便(月謝袋)配布開始
21	土	休講日
22	日	休講日
23	月	天皇誕生日 休講日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	2026年3月分 月謝引落日
28	土	休講日



ケアレスミスを防ぐ工夫

ケアレスミスは誰にもあることですが、問題はその頻度です。ミスが目立つようなら、どこでよく間違えるのか一覧を作り、試験時にはそこを間違えていないかを特に意識します。もちろん、見直しも大事です。ケアレスミスを防ぐ工夫をすると共に、気持ちをコントロールできるようになることが非常に重要です。そしてコントロールするすべを得するためには、問題練習を繰返し、気持ちを保つための根拠となる「経験」を積み、「自信」を付ける事です。性格別に考えると、神経質なお子さんは、十分に準備して過去練習で結果を出し、それを信じて試験に臨むことがポイントです。また一方、大雑把なお子さんは十分な準備までは同じですが、良い結果を出してもあまり自分の力を過信しないで、最後まで1点でも多く取ろう、何かミスがないかという気持ちを持ち続けることが大切だと思います。いずれも共通して言えるのは、本番で実力を発揮するために日頃から試験を想定した練習を重ねておくことです。演習を積み重ねることで、落ち着いて問題に向き合える力が養われていきます。

048-447-0278 塾長 斉藤

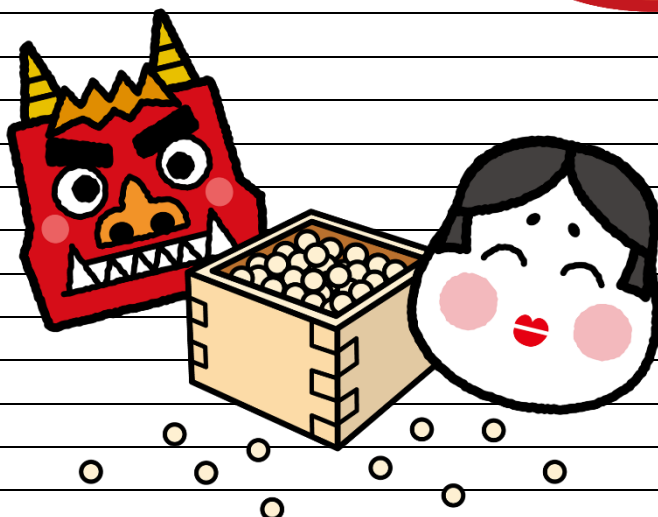
2026 武蔵義塾 中学生カレンダー 【2月】

今月の主な催し ☆ “高校入試に学年末テスト！自分の実力を出し切る準備をしよう！”

- 公立高校 入試日 学力検査 2/26(木)、面接・実技 2/27(金)→発表 3/6(金) 全力を出し切ってガンバレ！！
- 2/15(日) 2025 年度第 3 回漢検試験実施。受験生の皆さん、ファイト！！
- 学年末テスト直前講習(理・社対策) 2/21(土)～2/22(日)。→ 3 学期学年末テスト 2/26(木)・2/27(金)
- いつでも、教育・入試に関するご相談に応じておりますので、お気軽に御電話下さい。
- 小・中学生 大募集中(特典・キャンペーン有)、無料体験学習(2 日間) 実施中！



日	曜	行事
1	日	休講日
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	休講日
8	日	休講日
9	月	
10	火	
11	水	建国記念日 休講日
12	木	
13	金	
14	土	休講日
15	日	休講日 2025 年度第 3 回 漢字検定試験実施予定 がんばれ！受験生！！
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	3 学期学年末テスト一週間前 (目標点設置)
20	金	シャトル便 (月謝袋) 配布開始
21	土	学年末テスト直前講習 (理・社対策) 10:00～16:00
22	日	学年末テスト直前講習 (理・社対策) 10:00～16:00
23	月	天皇誕生日 休講日
24	火	
25	水	
26	木	埼玉県公立高校入試 学力検査 3 学期学年末テスト
27	金	埼玉県公立高校入試 実技・面接検査 3 学期学年末テスト 2026 年 3 月分 月謝引落日
28	土	休講日
		3/6(金)埼玉県公立高校入試 合格発表



高校入試直前 過去問利用法

埼玉県公立高校入試本番(2/26 学力検査)まで約一ヶ月余りとなった今、過去問を有効に使うって公立高校入試の傾向と対策をしっかりと立てましょう！過去問をやった際に間違えたり、手に負えなかったりした問題は、必ず解説を読み、教科書も見てください。そして、もう一度挑戦することです。似たような問題が公立高入試にはしばしば出てきます。なので、もう一度やり直して「できる」状態に持っていくことが力になるのです。残りの期間は、間違えた問題をそのままにせず、なぜ間違えたのかを振り返ることが重要です。理解が不十分な単元は教科書に戻り、基礎から確認することで得点力の安定につながります。そして、入試本番で出るのは、類似問題や関連問題ですから、「できた」に安心せず、「できた」問題の周辺にある知識を固めるように心がけてください。つまり過去問は、量と質のバランスを重視した直前勉強法と言うことができるのです。焦らず、残りの期間を有効に使い、最後まで粘り強く準備を進めていきましょう。

武蔵義塾 塾長 斉藤征孝